

第2学年国語科学習指導案

山口県立山口高等学校
教諭 坂野和弘

- 1 日時 平成21年1月30日(金)第4限
- 2 学習者 山口高等学校2年理数科(男子19名・女子21名)
- 3 単元名 日記 更級日記「門出」(教科書……『古典』東京書籍)

4 単元目標

《情意面》(向上目標)

平安朝の代表的な女流日記文学を読み、作者の生き方やものの見方、感じ方を理解する。(関心・意欲・態度)

作者の十代の回想場面を読み、その心情を理解する。(関心・意欲・態度)

《知識・理解・技能面》

文語文法・古語をふまえ、本文を正確に読解することができる。(読む能力)(知識・理解)

本文の表現の特色を把握し、言語表現に対する理解を深めることができる。(読む力)(知識・理解)

5 単元設定の意図

《生徒観》 山口高校2年8組(理数科)

生徒は二学年終盤に至るまでに古文の学習を着実に積み重ね、個人差はあるものの、古文読解の基礎力は概ね身につけているものと考えられる。学習活動に真摯に取り組む生徒が大半を占め、授業は円滑に展開することが多い。卒業後は理科系分野への進学を目指す者たちであり、今後古文の世界が縁遠くなることも予想される。高校教育の段階で古文の魅力・面白さに触れ、豊かな感受性を身につけるとともに、生涯にわたり文学に接しようとする姿勢が涵養されることも求められる。

《教材観》

「更級日記」の冒頭は、「源氏物語」に憧れる作者の回想から書き綴られており、浪漫的世界に憧憬を抱く思春期の世代には共感を呼び起こす内容だと考えられる。その点では、学習者には馴染みやすい作品であろう。また、本作品冒頭は、「あづまぢの道のはてよりも、なほ奥つ方に生ひ出でたる人」と、自己を客体化した物語風の表現で始まり、個人の回想録でありながら、それを相対化・物語化する意図が如実に表れている。生徒には、このように作者自身の人生の経緯を客観視することのできる透徹した自我が平安貴族女性の中に芽生えていたということの本作品をとおして理解させたい。理知と感情との距離の取り方に苦慮しがちな時期にある生徒にとって、本作品の学習は、「私を見る私」という視点の一つのモデルとの邂逅ともなりうるのではないだろうか。

作品全体を俯瞰すると、物語に耽溺した少女時代は、現実の壁に阻まれるという作者自身の体験を経て後、悔恨すべき過去として位置づけられることになるが、作者の評価とは裏腹に少女時代の描写は生き生きとした明るさを湛えている。それは後年いかに当時の自己を否定したにしろ、憧れ夢見る少女時代へのおさえがたい哀惜が、やむにやまれぬ郷愁として作者の心を支え続けていたからのことだろう。作者の執筆の意図を逸脱しているとも解釈しうる本編の記述の明るさから、表現の他律性について示唆を与えることは、学習者が表現の重層的性質について考察する契機ともなるであろう。

《指導観》

語彙力や文法力を駆使して、原文を的確に現代語訳することにより、物語世界にあこがれる作者の心情を把握させたい。また、作品全般を踏まえ作者の到達した人生観に触れることで、生徒自身の人間観を深めるとともに、豊かな感受性を育てたい。更には、作者の意図から逸脱した要素が読者に伝わる場合もあることを示唆し、表現の他律性について興味・関心を抱かせたい。

6 評価規準

	関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
題材・単元 の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 古典の文章を、表現に即して読み味わうことを通して、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の内容を叙述に即して的確に読み取っている。 文章を読んで、作者の心情を把握している。 文章を読んで、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かに身に付けている。 文語のきまりなどについて理解している。
学習活動における 具体の評価規準	表現に即して読み味わうことを通して、内容や作者の心情を把握し、自己のものの見方、感じ方、考え方を広げ、深めようとしている。	語彙力・文法力を手がかりに、文章の内容を的確に読み取ることができる。 本文の記述をとおして、作者の心情を把握することができる。 文章を読んで、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりすることができる。	語句の意味、用法などを理解し、語彙を豊かにしている。 助詞・助動詞の意味・用法について理解している。

7 学習計画（指導と評価の計画）

目 標	学 習 内 容 学 習 活 動	評価規準		評価方法
		関	読;知	
<ul style="list-style-type: none"> 作者菅原孝標女の生涯に興味を持つ。 本文を通読する。 第1段落を読解し、作者の心情を把握する。 第2段落を読解し、作者の心情を把握する。 作者の人生観について考察する。 言語表現についての理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 菅原孝標女の生涯と、文学史的な位置づけについて理解する。 歴史的仮名遣いなどに注意しながら全文を音読する。 助詞・助動詞・重要古語に注意しながら第1段落を現代語訳する。 作者の物語に対する憧憬を理解する。 助詞・助動詞・重要古語に注意しながら第2段落を現代語訳する。 住み慣れた家を去り、願をかけた薬師仏を置き去りにする寂寥を理解する。 更級日記全体の内容を確認し、作者が最終的に到達した人生観を知り、少女時代の自分をどのように評価しているか理解する。 本文の表現の特徴を把握し、作者の表現意図について理解する。 表現の他律性について考察する。 			<ul style="list-style-type: none"> 行動の観察 事前学習ワークシートの記述の点検・検証

8 指導と評価の実際

(1) 主眼・ねらい

更級日記「門出」を読んで、作者の物語への憧憬を理解するとともに、本文の表現の特色を分析し、その魅力を味わう。

(2) 準備

更級日記「門出」を音読し、事前学習ワークシートを活用し、全文を現代語訳して授業に臨むよう指示しておく。

(3) 学習過程

学習内容・学習活動	予想される学習者の反応	教師の支援
<ul style="list-style-type: none"> ・「更級日記」の文学史的な位置づけと作者の生涯を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「蜻蛉日記」「源氏物語」「枕草子」との成立関係について、理解し、各々の人間関係について興味を抱く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・藤原一族の家系図を参照して、それぞれの作者の関わりを整理させる。
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的仮名遣いなどに注意しながら全文を音読する。(一人一文ずつの交替読み) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いとどゆかしさまされど」の音読に苦慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・品詞分解を確認させる。 ・「世の中に物語といふものあんなるを」で、「ん」が表記されていることを指摘する。(「ん」の文字の普及について補説する)
<ul style="list-style-type: none"> ・第1段落を現代語訳し、作者の心情を把握する。 <p>作者が自己を客体化した表現を指摘する</p> <p>作者が物語に傾倒する経緯を把握する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「あやしかりけむを」「あんなる」「いかで見ばや」「いとどゆかしさまされど」「いかでかおぼえ語らむ」「心もとなきまに」「候ふなる」の現代語訳に苦慮する。 ・「生ひ出でたる人」「いかばかりかあやしかりけむ」「いかに思ひはじめけることにか」に含まれる、回顧録としては不自然な表現に気づくことができる。 ・作者の心情表現を把握することができる。 「いかで見ばや」「いとどゆかしさまされど」「いみじくこころもとなきまに」薬師仏に祈願(行動) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あやし」の語意を三種指摘し、どの意を用いるのが適切か問う。 ・助動詞「なり」の直前の語が撥音便である場合の文法的定義について説明する。 ・終助詞「ばや」の用法を確認させる。 ・「ゆかし」の語意を確認させ、文脈に応じた訳を考えさせる。 ・「いかでか」の係り助詞「か」の語意を確認させる。 ・「心もとなし」の語意を確認させる。 ・「候ふなる」の助動詞「なり」の意味を、文脈から類推させる。 ・「人」(第三者的な言い回し)「いかばかりか...けむ」(推量表現)「いかに...か」(疑問)の語に着目させる。 ・作者の物語への憧憬が高揚してゆく過程を確認させる。 ・物語への憧憬が都への憧憬と連動していることを指摘する。 京 = 物語のある場所・物語の登場人物が活躍する舞台・「あ

		やし」と対極にある人々の 住む場所
<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 2 段落を現代語訳し、作者の心情を把握する。 <p>門出にあたっての作者の心情を把握する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「いとすごく霧りわたりたるに」の現代語訳に苦慮する。 ・ 「年ごろ遊びなれつる所を、あらはにこほち散らして」の表現に着目することができる。 ・ 「いとすごく霧りわたりたるに」の表現に着目することができる。 ・ 「(薬師仏を)見捨て奉る悲しくて」の表現に着目することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「すごし」の語意を確認させる。 ・ 遊び慣れた土地を離れる寂寥を指摘する。 ・ 「いとすごく」という表現の解釈について示唆する。 馴染んだ土地を捨てて、薬師仏を見捨てて去る寂しさ。 住んでいた土地そのものに対する印象。 ・ 作者の願いをかなえてくれた薬師仏との別離を悲しむ作者の心情を指摘する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 作者の少女時代の評価について把握する <p>東国での少女時代の生活の記述を考察する</p> <p>日記執筆時点での作者の人生観を理解する</p> <p>本文の生き生きとした表現の明るさを確認する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土地での生活の記述が皆無で、物語への憧憬のみが記されていることを理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四年間暮らした土地でありながら、「物語」への憧憬のみが語られ、現地での生活が言及されていない点を指摘する。 ・ 更級日記の全体の内容を概説し、作者が少女時代をどのように捉えているかを説明する。 ・ 執筆時から見ると悔恨に満ちた少女時代でありながら、その内容に明るさのある理由を示唆する。 ・ 作者の意図から逸脱した要素が読者に伝わる場合もあることを指摘し、表現の他律性について示唆する。